

◆ 今週のコメント (感染地域、感染経路については推定を含みます。)

- ・ A型肝炎の報告が1例(20歳代男性)あり、症状は全身倦怠感、発熱及び黄疸等です。感染地域は国外(ネパール)で、感染経路は経口です。本年初めての報告です。
- ・ 日本紅斑熱の報告が2例(60歳代男性及び50歳代女性)あり、いずれも症状は発熱、頭痛、刺し口、発疹及び肝機能異常、感染地域は国内、感染経路はマダニです。本年の累積報告数は3例となりました。
- ・ マラリアの報告が1例(20歳代男性)あり、症状は発熱、悪寒及び下痢です。感染地域は国外(コンゴ)で、感染経路は蚊です。本年初めての報告となっています。
- ・ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症の報告が1例(50歳代男性)あり、症状はショック、腎不全及び軟部組織炎等です。本年の累積報告数は4例となりました。
- ・ ジアルジア症の報告が1例(20歳代男性)あり、症状は下痢です。感染地域は国外(インド)で、感染経路は経口、水系です。本年の累積報告数は2例となっています。
- ・ 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が2例(90歳代男性及び70歳代女性)ありました。いずれも感染地域は国内です。本年の累積報告数は15例となりました。
- ・ 梅毒の報告が2例(40歳代男性及び60歳代女性)ありました。感染地域は国内で、感染経路は性的接触です。本年の累積報告数は6例となりました。
- ・ 百日咳の報告が2例(10歳未満及び10歳代男性)あり、症状は持続する咳、夜間の咳き込み等です。感染地域はいずれも国内です。本年の累積報告数は12例となりました。
- ・ 風しんの報告が2例(40歳代男性及び女性)あり、症状は発熱、発疹等です。いずれも感染地域は国内、感染経路は不明です。本年の累積報告数は4例となりました。
- ・ 麻しんの報告が1例(20歳代男性)(第6週追加報告分)ありました。症状は発熱、鼻汁、粘膜充血、コプリック斑及び発疹です。感染地域は国内で、感染経路は飛沫・飛沫核感染です。本年の累積報告数は3例となりました。
- ・ インフルエンザの定点当たり報告数は、前週の21.64(1,493例)から9.45(652例)と減少しました。

◆ 今週のトピックス:<日本紅斑熱>

日本紅斑熱の報告が2例あり、本年の累積報告数は3例となりました。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類:結核 6例(肺結核 5例、その他結核なし、潜在性結核感染者1例)うち喀痰塗抹陽性 3例
【1月以降の累積報告数 35例(肺結核 14例、その他結核 5例、潜在性結核感染者 16例)うち喀痰塗抹陽性 7例】
- ・ 四類:A型肝炎 1例【1月以降の累積報告数 1例】
- ・ 四類:日本紅斑熱 2例【1月以降の累積報告数 3例】
- ・ 四類:マラリア(四日熱) 1例【1月以降の累積報告数 1例】
- ・ 五類:劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 4例】
- ・ 五類:ジアルジア症 1例【1月以降の累積報告数 2例】
- ・ 五類:侵襲性肺炎球菌感染症 2例【1月以降の累積報告数 15例】
- ・ 五類:梅毒 2例【1月以降の累積報告数 6例】
- ・ 五類:百日咳 2例【1月以降の累積報告数 12例】
- ・ 五類:風しん 2例【1月以降の累積報告数 4例】
- ・ 五類:麻しん 1例【1月以降の累積報告数 3例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69、小児科定点43、眼科定点10、基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	9.45	652
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	4.95	213
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.21	52
	③ 伝染性紅斑	0.79	34
	④ 咽頭結膜熱	0.23	10
	⑤ RSウイルス感染症	0.16	7
眼科	流行性角結膜炎	0.30	3

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<日本紅斑熱>

付表(疾病、行政区別報告数 / 年齢階級、疾病別報告数 / 週、疾病別報告数)

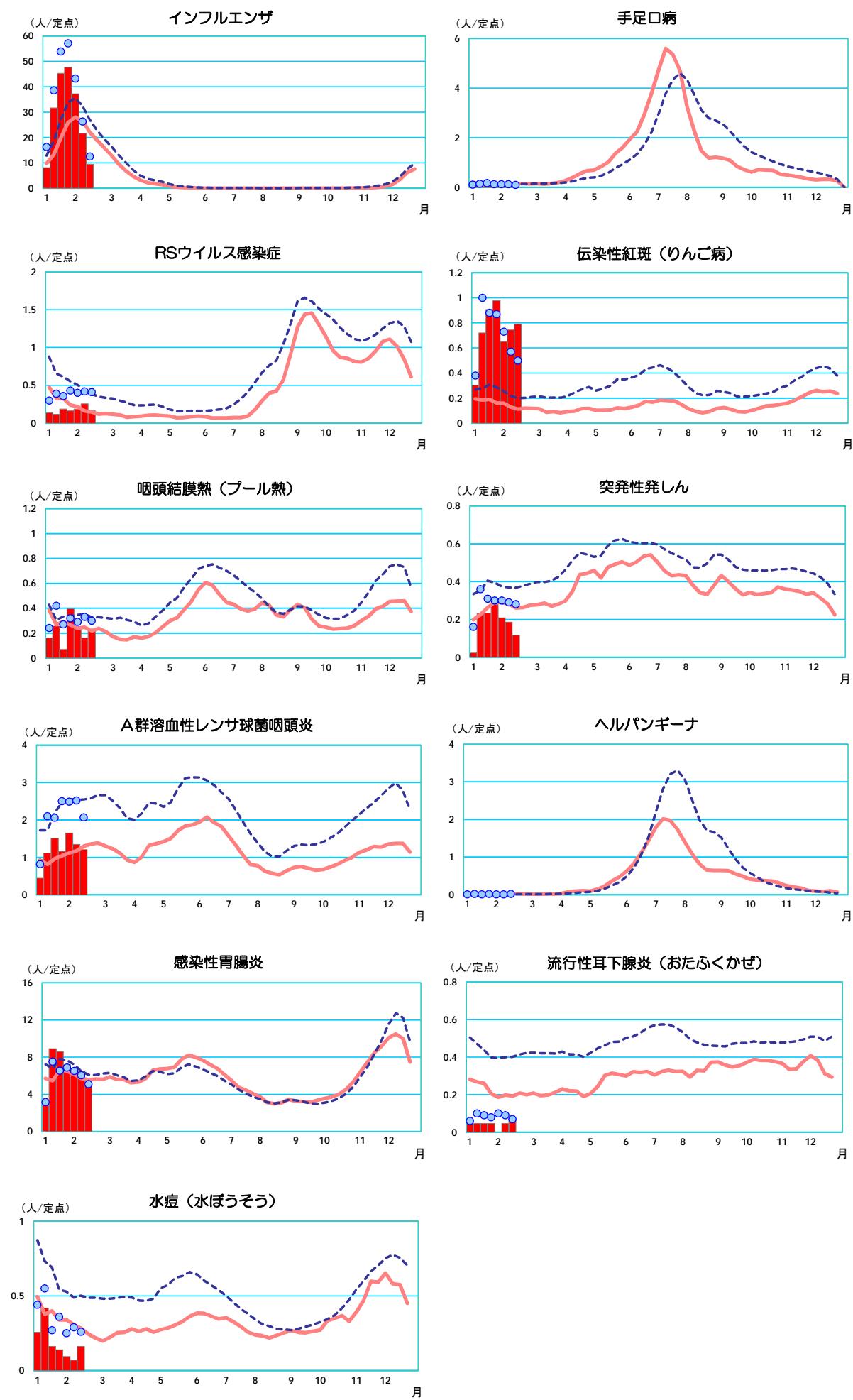
(注) 京都市のデータは、2019年2月20日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

インフルエンザ 及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2019年）

京都市_本年 京都市_過去5年平均
全国_本年 全国_過去5年平均値



第7週(2月11日～2月17日)トピックス：<日本紅斑熱>

日本紅斑熱の報告が2例あり、本年の累積報告数は3例となりました。京都市では「感染症法」が施行された平成11年4月以降、平成23年、平成27年、平成29年に次ぐ7例目の報告となっています。

日本紅斑熱は紅斑熱群リケッチャの一種を起因病原体とし、野山に入り病原体を持ったマダニに刺咬されることにより感染します。平成7年頃から増加の傾向があり、夏を中心に春から秋にかけて長期間発生しています(図1)。また、都道府県別では三重県、和歌山県、広島県など西日本を中心に発生地域の偏りが見られます(図2)。

臨床症状は、頭痛、発熱、倦怠感を伴って発症し、発熱・発疹・刺し口が主要3兆候で、潜伏期間は2～8日です。

予防は、ダニの刺咬を防ぐことが重要で、農作業や森林作業などでダニの発生地に立ち入る際は、皮膚の露出を少なくし、ダニ忌避剤を使用します。作業後は、衣類を洗濯し、入浴して身体へのダニの付着を確認します。万一咬まれていた場合は、指でつぶしたり無理に引き離すことがありますので、医療機関で処置してもらいましょう。

京都市衛生環境研究所では、マダニに関する情報を御紹介していますので、ぜひ御覧ください。

【京都市情報館】京都市衛生環境研究所にゆ一す(平成29年度 第1号) マダニにご注意！

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000175/175313/29-1.pdf>

海外旅行でも感染の危険があります。以下のホームページを参考に、ダニが媒介する感染症から身を守りましょう。

【厚生労働省検疫所】虫除け対策をしよう

<http://www.forth.go.jp/useful/attention/14.html>

【厚生労働省】夏休みにおける海外での感染症予防について

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/travel-kansenshou.html

図1 全国の日本紅斑熱報告数の推移

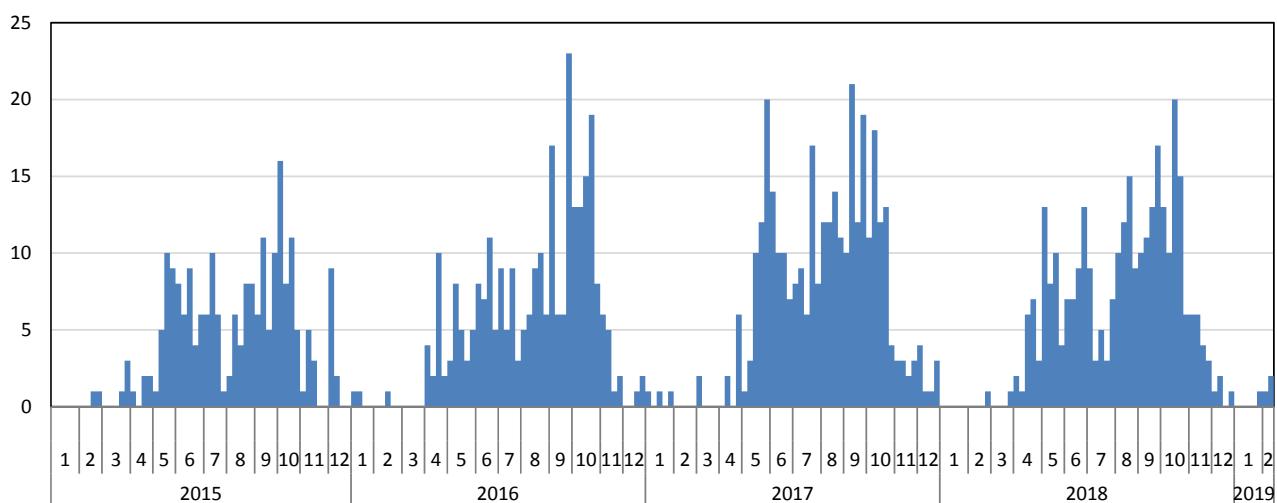
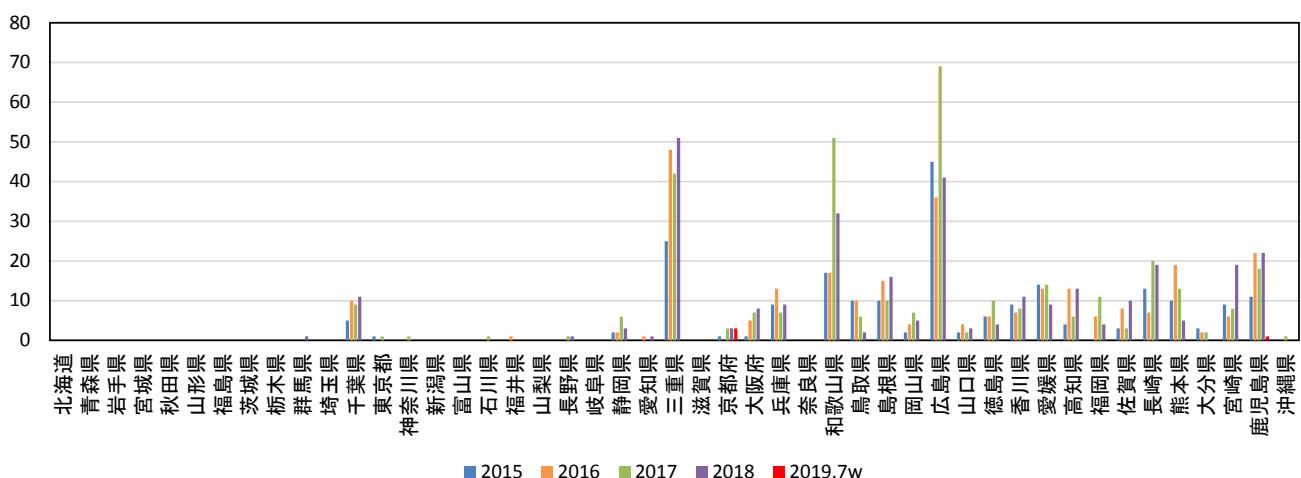


図2 都道府県別報告数の年別推移



T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第7週

疾病,行政区別報告数

2019年2月11日～2019年2月17日

データ入手日:2019年2月20日

	インフルエンザ (※ ¹)	R Sウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A炎群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性齶膜炎(※ ²)	無菌性齶膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※ ³)	感染性胃腸炎(※ ⁴)
男女合計																		
北	24	1	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
上京	24	-	-	2	5	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
左京	82	-	1	3	19	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
中京	42	-	-	5	22	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
東山	18	-	-	1	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山科	66	-	-	1	5	2	-	11	3	-	-	-	-	1	-	-	-	
下京	22	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
南	58	2	-	2	25	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
右京	109	4	3	28	36	1	1	7	1	-	-	-	-	1	-	-	-	
伏見	132	-	6	6	50	1	1	2	1	-	2	-	-	-	-	-	-	
西京	75	-	-	4	27	1	-	7	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
京都市計	652	7	10	52	213	7	3	34	5	-	3	-	3	-	-	-	-	

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ (※ ¹)	R Sウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A炎群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性齶膜炎(※ ²)	無菌性齶膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※ ³)	感染性胃腸炎(※ ⁴)
男女合計																		
北	3.43	0.25	-	-	1.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
上京	4.80	-	-	0.67	1.67	-	-	-	-	-	-	-	-	1.00	-	-	-	
左京	11.71	-	0.25	0.75	4.75	-	-	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
中京	8.40	-	-	1.67	7.33	0.67	0.33	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
東山	6.00	-	-	0.50	7.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山科	9.43	-	-	0.20	1.00	0.40	-	2.20	0.60	-	-	-	-	1.00	-	-	-	
下京	7.33	-	-	-	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
南	11.60	0.67	-	0.67	8.33	-	-	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
右京	13.63	0.80	0.60	5.60	7.20	0.20	0.20	1.40	0.20	-	-	-	-	1.00	-	-	-	
伏見	12.00	-	0.86	0.86	7.14	0.14	0.14	0.29	0.14	-	0.29	-	-	-	-	-	-	
西京	9.38	-	-	0.80	5.40	0.20	-	1.40	-	-	0.20	-	-	-	-	-	-	
京都市計	9.45	0.16	0.23	1.21	4.95	0.16	0.07	0.79	0.12	-	0.07	-	0.30	-	-	-	-	

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性齶膜炎は齶膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3202

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第7週

年齡階級，疾病別報告數

2019年2月11日～2019年2月17日

データ入手日:2019年2月20日

年齢階級、疾病別定点当たり報告数

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第7週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2019年2月20日

京都市	男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	2,185	3,125	3,292	2,568	1,493	652	
RSウイルス感染症	5	8	7	8	11	7	
咽頭結膜熱	11	3	17	10	7	10	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	48	65	50	71	58	52	
感染性胃腸炎	383	369	308	282	278	213	
水痘	18	7	6	4	3	7	
手足口病	4	2	1	2	3	3	
伝染性紅斑	31	39	42	28	32	34	
突発性発しん	10	10	12	9	8	5	
ヘルパンギーナ	1	-	2	-	3	-	
流行性耳下腺炎	2	2	2	-	2	3	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	8	1	1	1	2	3	
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-	
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-	
合 計	2,706	3,631	3,740	2,983	1,900	989	

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市	男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	31.67	45.29	47.71	37.22	21.64	9.45	
RSウイルス感染症	0.12	0.19	0.16	0.19	0.26	0.16	
咽頭結膜熱	0.26	0.07	0.40	0.23	0.16	0.23	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.12	1.51	1.16	1.65	1.35	1.21	
感染性胃腸炎	8.91	8.58	7.16	6.56	6.47	4.95	
水痘	0.42	0.16	0.14	0.09	0.07	0.16	
手足口病	0.09	0.05	0.02	0.05	0.07	0.07	
伝染性紅斑	0.72	0.91	0.98	0.65	0.74	0.79	
突発性発しん	0.23	0.23	0.28	0.21	0.19	0.12	
ヘルパンギーナ	0.02	-	0.05	-	0.07	-	
流行性耳下腺炎	0.05	0.05	0.05	-	0.05	0.07	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	0.80	0.10	0.10	0.10	0.20	0.30	
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-	
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-	
合 計	44.40	57.13	58.21	46.95	31.26	17.52	

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1について含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。